

橋梁あれこれ

数ある土木構造物の中でも多くの方がたにより親しまれているものといえば〈はし〉をあげることに異存はないでしょう。そこで今回は、〈はし〉、われわれがいうところの橋梁についてその変遷小史をひといてみました。ただし、原資料は建設省関東地方建設局のものに限定してあります。

表-1と表-2をご覧ください。これは関東地建管内の国道に架設された橋梁年次、橋長、橋種をとりまとめたものです。また、図-1は、年度別の架橋数の変遷を示したものです。

昭和以前に架設され現在も引き続き供用中のものが3%も残在していること、架橋数の変遷が世相の変化を示してひとつの指標となり得ていること、等々、いろいろと興味深いものです。また、橋長別のものでは10m未満の群小橋梁が全体の約50%を占め、それらのうちの大部分がRC版桁・4～5m程度のものであることは驚きです。

専門誌などに華ばなく取り上げられる橋梁の工事報告では、これらの事実から見るかぎり、全体のごく一部の橋梁にすぎないことがお判りいただけるかと思います。

表-1 架設年度別橋梁数

架設年次	橋種 R C 橋 床版, T 桁	プレストレス橋 T 桁, 箱桁	鋼 鉄 橋 合成, 半合成	其 他	計
昭和以前	30		14	5	49
1～5	56		12	3	71
6～10	139		29	3	171
11～15	84		9	2	95
16～20	20		1	1	22
21～25	44		7	1	52
26～30	117	12	11	19	159
31～35	142	51	22	26	241
36～40	117	57	88	14	276
41～45	89	48	133	2	272
46～50	18	35	94	6	153
計	(54.9%) 856	(13.0%) 203	(26.9%) 420	(5.2%) 82	1561

表-2 橋長別橋梁数

橋種 橋長(m)	RC橋	PC橋	鋼鉄橋	その他	計
0～10	669	44	35	13	(48.8%) 761
10～20	92	73	50	4	(14.0%) 219
20～40	45	35	122	17	(14.0%) 219
40～60	15	13	60	18	(6.8%) 106
60～100	15	9	53	12	(5.7%) 89
100以上	20	29	100	18	(10.7%) 167
計	856	203	420	82	1561

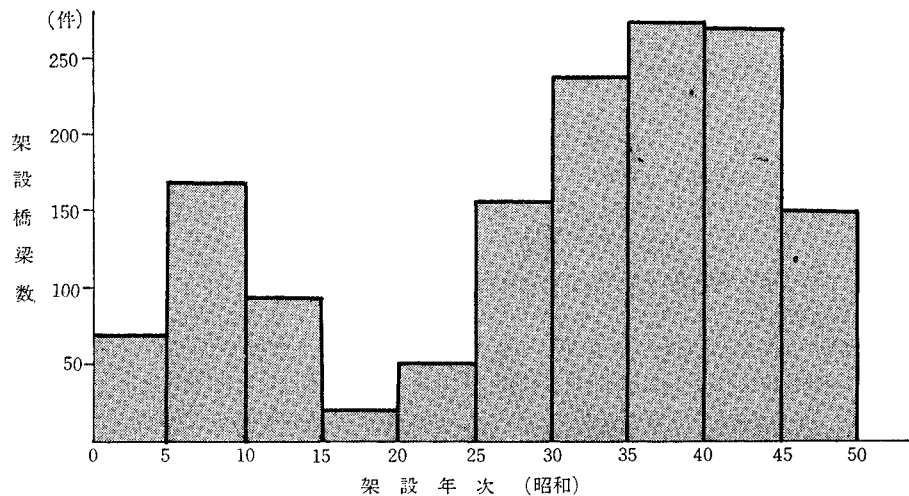


図-1 年度別架設数